

瀬戸内市の旅

Journey of Setouchi City

うしまどかいゆうぶんかかん

牛窓海遊文化館

古くから風待ち、潮待ちの港として栄えた牛窓。今なお多くの歴史文化遺産が残っています。

牛窓海遊文化館は、令和3年8月にリニューアルオープンしました。館内のパネルは、イラストで説明するなど、子どもにも分かりやすい展示に一新されています。



牛窓海遊文化館（外観）

てられた和洋折衷の擬洋風建築で、国の登録有形文化財に登録されています。

館内は、朝鮮通信使資料室とだんじり展示室に分かれています。朝鮮通信使資料室では、朝鮮通信使が描いた牛窓の町並みや、朝鮮通信使の一行が船や徒歩で江戸に向かう様子など、江戸時代の朝鮮と日本との国交や文化交流の歴史が分かるパネルなどを展示しています。

だんじり展示室では、県指

定重要無形民俗文化財の唐子踊の紹介や、県指定重要有形民俗文化財で祭りに巡行する牛窓だんじり8基のうち、2基のだんじりが展示されています。また、展示室では、牛窓秋祭りの様子を映像で観ることが出来ます。

ぜひ、一度お越しください。



朝鮮通信使展示室



だんじり展示室

利用のご案内

- ▷所在地 牛窓町牛窓 3056
- ▷営業時間 午前9時～午後5時
- ※入館は午後4時半まで
- ▷定休日 水曜日（7・8月は除く）
- ▷入場料 大人300円、学生（小・中・高）150円
- ◎牛窓海遊文化館 ☎0869-34-5505



瀬戸内発見伝

巻之百四十五

瀬戸内市に残る城跡

城の現状について

日本全国には、さまざまな城があり、その数は約6万ともいわれています。

城は、戦闘のための砦として造られますが、戦闘のためだけでなく、城主（領主）の居住空間や地域の政治の中心地としても機能しました。しかしながら、現在は大半の城が主な役割を終えており、城の構造が失われて「城があった痕跡」を残しているにすぎません。

さまざまな種類の城

城といえば、岡山城や姫路城など、本丸に大きな天守がそびえ、周囲には門や櫓など



中世の山城のイメージ 荒砥城（長野県）

多くの建物が建ち、壮大な石垣や水をたたえた濠があるものをイメージされがちです。このような城は、江戸時代に一部の地域で造られたものです。また、城は、弥生時代から明治時代初期まで造られましたが、主に江戸時代に造ら

れていた石垣づくりの城に加え、中世には集落ごと空堀で囲む城や、敵襲を知らせるための狼煙を上げるだけの狼煙台などの小規模な城など、さまざまな種類の城が造られました。

中でも多く見られるものが、室町時代に造られた山頂部などに曲輪と呼ばれる兵の駐屯地を造り、周囲に柵や堀といった防御施設を伴う山城と、平地でも居住区域を土塁や堀で区切る平城です。

また、室町時代末期の山城の中には、山全体を要塞化した城や、多数の曲輪や堀を複雑に組み合わせた城が登場します。これは、この時代の地域の政情が不安定で、戦乱が絶えずあったことを示しています。



砥石城から臨んだ千町平野

市内に残る城跡

瀬戸内市は、江戸時代には岡山藩の藩領となっていたことから、天守がある石垣造りの城はありません。現在確認されている室町時代に造られた城は、17城あります。その多くは山城で、見晴らしも良

く、守りやすい急峻な山を選んで立地しています。

中でも、砥石城（邑久町豊原）や高取山城（邑久町東谷）は、標高がそれほど高くはありませんが、山頂にある本丸（主郭）からは千町平野をはじめ、遠くは芥子山や熊山などを望むことができます。

また、平野部にも城跡が残っており、特に長船派の刀鍛冶が住んでいたとされる長船城（長船町長船）や、中世の武士の館の構造が残る堀城（長船町磯上）などは比較的訪れやすくなっています。

いずれも現在は、建物は何も残っていませんが、瀬戸内市内にある城跡を訪れ、中世の歴史に触れてみるのはいかがでしょうか。

